

山口県 地域医療の風だより

Yamaguchi Community Medicine News

地域医療の現場より

医療法人社団 河郷診療所
理事長 河郷忍先生に聞く

県外出身医師から見た山口県の医療の姿
山口県の地域医療を考える

「山口県へき地医療功労者知事表彰」表彰式
やまぐち地域医療セミナー2017 in 長門
山口県で総合診療医になろう！
地域医療に従事する医師を志す方への支援制度

「患者さんとその家族に

納得してもらって、喜んでもらう、

そういう仕事をしたいと思っています」



山口県 地域医療の風だより

No. 17 平成 30 年 3 月号

目次

◆ 地域医療の現場より 医療法人社団河郷診療所 理事長 河郷忍先生に聞く	2
◆ トピックス 「山口県へき地医療功労者知事表彰」表彰式	7
◆ 「やまぐち地域医療セミナー2017 in 長門」開催！	8
◆ ～県外出身医師から見た山口県の医療の姿～ 山口県の地域医療を考える 山口県立総合医療センターへき地医療支援部 横田啓先生	10
◆ 山口県で総合診療医になろう！	14
◆ 県からのお知らせ	
◇ 医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」	15
◇ 地域医療に従事する医師を志す方への支援制度を設けています！	15
◇ 「山口県地域医療の風だより」継続発送の御案内	17

表紙

ことば 「患者さんとその家族に納得してもらって、喜んでもらう、そういう仕事をしたいと思っています」
(医療法人社団河郷診療所 理事長 河郷忍先生へのインタビューから)

写真 周防祖生の柱松（国指定重要無形文化財）

柱松は、およそ 280 年続く伝統の火祭りです。河郷診療所のある周東町祖生の中村・山田・落合の3地区で古来から継承されてきました。高さ 20 mほどの胴木の先に円錐形の鉢を乗せ、三方に大綱を張って立て据え、神事の後火をつけた松明を投げて点火・炎上させます。松明が弧を描き、燃え盛る柱松が夏の夜空を焦がす様は圧巻です。

地域医療の現場より

第17回

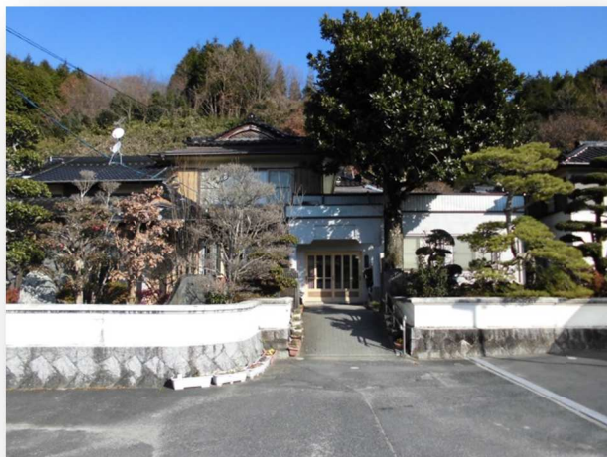


医療法人社団
河郷診療所
河郷忍理事長

Shinobu Kawasaki

第17回の「地域医療の現場より」では、岩国市周東町で診療所を経営されるとともに、長年にわたり岩国市が開設するべき地診療所での診療にも従事され、このたび「山口県へき地医療功労者知事表彰」を受賞された河郷忍先生に、医師を志してから現在までのお話をお伺いしました。

飾らないお人柄で、地域を愛し、地域に愛されていることが感じられる、心が温まるようなお話が伺えました。



河郷忍（かわさとしのぶ）先生プロフィール

昭和28年、山口県岩国市周東町生まれ。市内の高校を卒業後、関西医科大学で学ぶ。

昭和46年3月 私立高水高等学校卒業
昭和53年3月 関西医科大学卒業
昭和53年4月 関西医科大学第3内科入局
昭和57年2月 河郷医院（現河郷診療所）継承

河郷診療所

住所 岩国市周東町祖生5917-2
電話 0827-85-0010

—河郷先生が、医師になろうと思ったきっかけについてお聞かせください。

診療所は、祖父が大正13年に開設した診療所で、建物は戦前に建てられたものです。父親は昭和26年から始めて、私は昭和57年から始めました。私は一人っ子で、当然診療所を継ぐのは自分かなと、自然に考えていたのだと思います。そうしていつしか医師の道を目指すようになっていました。

—大正13年から続いているのですか。地域にとっては無くてはならない診療所ですね。

先生は河郷診療所を継がれるまでは、こういったところで勤務されておられたのですか。

大学は関西医科大学に進学しました。卒業して、大学病院で消化器内科に入局したのですが、ちょうどその頃、父の具合が悪くなり、大学勤務3年

半で、急きょ診療所に戻ってきました。28歳の1月でした。戻ってきて間もなく、父は在宅で亡くなりました。開業して、最初の死亡診断書が父でした。

—それは急なことだったんですね。きっと最初はご苦労されたのではないですか。

専門を取る前に大学を離れることになったのですが、何とかかな、と安易に考えて開業しました。今から考えると無謀だったと思います。

—今日も外来の患者さんがたくさんおられますが、こういった特徴のある診療所ですか。



(上) 河郷忍先生 (下) 河郷診療所のシンボルツリー



今朝の外来は55人でした。この地域は高速道路のインターチェンジが近くにあり、比較的交通の便のいいところです。しかし、2つあった小学校が統合され、若い人が減り、やはり高齢者の多い地域で、患者さんも高齢者が多いですね。診療所に来られない高齢の患者さんのために、診療日の午後の時間は、往診に出かけます。ときどき医学生や看護学生、研修医などの研修の受入れもしていて、いろんな話をするのが楽しみです。



河郷診療所の待合室 ー診療開始時間から多くの患者さんで混み合う。

ー在宅の患者さんはどれくらい診ておられるのですか。

今は80人くらいです。この診療所と併せて、訪問看護ステーションも運営しているので、連携して在宅支援をしています。訪問看護がないと、80人も診られないですね。

ーそれでは、先生が支援しておられる周東中田診療所のこともお聞かせください。周東中田診療所を支援されることになったきっかけはなんですか。

中田診療所は父が診療支援していたもので、私はそれを引き続いてやっています。父からは周東中田診療所を支援することとなった理由は聞けていないです。

ー周東中田診療所はどんな診療所ですか。

周東町中田地区は人口450人くらいで、私が診療に行き出した30年前は、結構患者さんが多かったように思います。農業推進地区ですが、農業の担い手は減っていて、近頃は、独居や高齢者夫婦が多くなったように感じます。

ーどれくらいの間隔で診療されておられるのですか。

毎週水曜日に午後1時から3時の間で診療しています。高齢の患者さんが中心で、高血圧などで定期的に薬をもらいに来る方が多いですね。患者さんは1日2～5人程度です。そのあと、中田診療所の周辺の患者さん宅に訪問診療に行きます。



周東中田診療所

ーへき地診療所で勤務される上で、こういった専門をもっていたらいいとお考えですか。

私は、こういうへき地の診療所は、専門はいらないと思っています。とりあえず1次的なものを判断して、必要であれば専門の先生のところへ送る、ということが仕事と思っています。高齢になるほど、1人の人がいろんな病気を持っています。そうしたときに、先ず診てあげること、そして私で治療することが難しい場合は、専門医に紹介します。そのためには、日頃から研修会などに参加し、ネットワークづくりをしておくことが大事です。

一普段、どんなことを心がけて診療されていますか。

治療に関しては、患者さんとその家族に納得してもらって、喜んでもらう、そういう仕事をしたいと思っています。そのために私は、笑いとか、ユーモアというものを、大事にしています。それは、患者さんの医者に対するハードルを下げたいからです。そうすることで、患者さんからいろんな話を言ってもらえるようになると思います。中には、私に言わないで看護師に言ってる人はいますけどね（笑）



診療所の飾ってある絵が患者さんをなごませています

一きっと、先生が忙しいのが分るから、患者さんが先生に遠慮されるのでしょうか。

それでは、先生がやりがいを感じておられることはどんなことでしょうか。

患者さんから感謝されたときは、やってよかった、と思いますね。以前のことで、お茶の先生をされておられた方を在宅で看取りました。後日になって、その方の家族が、手紙を見つけて私に届けてくださいました。読んでみると、その方が生前に私に宛てた感謝の言葉が綴られた手紙でした。外来だけではこういったことはありません。訪問して、長い付き合いを重ねてのことだと思います。こういうことがあるから、この仕事は面白いなと思いますね。

一素敵な話ですね。

それでは、診療から離れて、普段、どんな楽しみをおもちですか。

大学のときに落語に夢中になりました。田舎に帰ってきて、落語会をやりたいと思っていました。ある噺家さんにご縁ができ、自宅の2階で落語会をしたり、公民館や学校で落語会をしています。結局、みんなに喜んでもらいたいですね。また、そういうことをきっかけに、人とのつながりができて、河郷診療所を題材とした歌（「往診ハラショウ」）を作っていただいたり、絵葉書を作っていただいたりして、人との関わりによって世界が広がりますね。



「往診ハラショウ」が収録されているCDジャケット
この曲は、リビート山中さんが河郷先生の往診に3日間同行され完成。これを聴くと不思議と温かい気持ちに。



河郷診療所のなにげない診療風景や往診の様子が描かれている絵葉書。とても温かみのある画風。

一先生が診療される上で目指しておられる事や、今後の抱負などお聞かせください。

私の能力に合わせた診療をすることですね。そして、息子がバトンタッチしてくれば、それまで継続したいと思います。

一最後に、これから医療の仕事に携わりたい高校生や医学生へのメッセージをお願いします。

開業医の仕事は面白い仕事だと思います。自分の仕事が面白いと思っている人は1割くらいしかいない、と聞いたことがあります。私はその1割に入ろうと思って仕事をしています。特に在宅医療は、辛い時もあるけど、結構面白いと思います。いろんな家族・家庭があり、外来では見えない風景も見えてきます。訪問看護師さんやケアマネさんと、あの人ああだったね、こうだったね、と話

すのも面白い。開業医も捨てたもんじゃないな、と思います。あと、へき地であっても、今はインターネットが普及して、いろんな情報が入ってくるので、やり方次第で、いろんなことを学べます。

一本日はありがとうございました。これからも末永く診療を続けていかれることを祈っております。



診療所スタッフの皆さんと（河郷先生の右隣は奥様）

「往診ハラショウ」 作詞・作曲／リピート山中

往診ハラショウ！ 今日も行く 菜の花色の風の中
往診ハラショウ！ 軽やかに いざ往診ハラショー！

犬も歩けば医者に当たるような 都会を離れて
陸の孤島田舎の村で跡を継いだよ小さな診療所
通院できるよな元気な病人の診察治療がすんだなら
走る走る 往診車が ヘビやバッタをよけながら
往診ハラショウ！ 今日も行く 夏草燃える風の中
往診ハラショウ！ 軽やかに 元気の種をたずさえて

病原菌と薬を仲人にして 聴診器で聞く打ち明け話
テレビだけが話相手の 孤独な日本がそこにある
虫歯・腹痛・魚の目・脱毛症・いぼ痔・アトピー・糖尿・結膜炎
診ましょ 診ましょ どんな病いも たった一人の総合病院
往診ハラショウ！ 今日も行く 茜に染まる風の中
往診ハラショウ！ 軽やかに 心の杖をたずさえて

一人暮らしの寝たきりおばあさん
天然ボケのじいさん世話するおばあさん
働きとおした年寄たちが 自分の子供をあてにもできずに
ボクが行くのを待っている・・・・

往診ハラショウ！ 今日も行く 真綿をちらす風の中
往診ハラショウ！ 軽やかに 元気の種をたずさえて
往診ハラショウ！ 今日も行く 菜の花色の風の中
往診ハラショウ！ 軽やかに いざ往診ハラショウ！



トピックス 「山口県へき地医療功労者知事表彰」の表彰式が行われました。

県では、長年にわたるへき地診療所への医師派遣など、へき地医療の確保に関する功績が顕著な団体を称えるとともに、その地道な取組を広く周知することにより、へき地医療に関心を持つ医療機関の増加など、へき地医療の確保の一層の推進を図ることを目的として、平成29年度に「山口県へき地医療功労者知事表彰」を創設しました。

最初の受賞者は、防府市お茶屋町の「医療法人博愛会山口博愛病院」と、岩国市周東町の「医療法人社団河郷診療所」の2医療機関に決定し、平成29年10月26日、県庁において、村岡知事から表彰状と記念品が授与されました。

この表彰をきっかけに、へき地医療支援の取組が他の医療機関にも広がることを期待しています。



(写真の左から、苅田理事長、村岡知事、河郷理事長)

【受賞者紹介】

「医療法人博愛会 山口博愛病院」

(理事長(院長) 苅田幹夫)

＊＊へき地医療の支援内容＊＊

[支援先]: 防府市野島診療所(週2回、医師1名、看護師1名、事務員1名を派遣)

・昭和61年11月、野島診療所に常駐していた医師の退職を受け、前身の村田博愛病院が診療業務を実施することとなり、現在まで31年間、島唯一の医療機関として診療を担っている。

「医療法人社団 河郷診療所」

(理事長(院長) 河郷忍)

＊＊へき地医療の支援内容＊＊

[支援先]: 岩国市立周東中田診療所(週1回、院長が診療を実施)

・昭和56年に、地区唯一の医療機関として前身の周東町立中田出張所が開設されて以来、現在まで36年、河郷診療所が診療業務を行っている。

「やまぐち地域医療セミナー2017 in 長門」開催！

県内で「観測史上最高」、「10日連続猛暑日」というニュースもあった平成29年8月。あのブーチン大統領も訪れた長門の地で、『やまぐち地域医療セミナー2017 in 長門』が2泊3日の日程で開催されました。

医学が進歩し、大学病院で行われる医療はより高度になり、命を救うために学ぶべきことはたくさんあります。一方で、患者さんが健康に幸せに過ごし続けるためには、それだけでなく生活に寄り添う医療もまた重要です。そこで、大学を飛び出して、日常生活の中にある医療に触れ、そこから地域の魅力や課題について考えるのが、このセミナーです。



今回は、山口大学・自治医科大学・高知大学・山口県立大学・萩看護学校から過去最多となる総勢39名の医学生・看護学生が参加しました。

実習では、地域に密着した病院や診療所・介護福祉施設・訪問看護ステーション・保健センターなどに分かれ、業務の見学や体験、患者さんへの

インタビューなどを行いました。また、民泊、地域サロンでの健康教室、独居の高齢者のお宅への訪問など、より住民の生活に近い場で実習された学生もいました。



その他にも、「Meet the Expert」と称して、向津具半島をフィールドに活動されておられる地域おこし協力隊の方や、金子みすゞ記念館の方からご講演を頂いたり、実習で心に残った場面や言葉を学生一人一人がスライド発表したりという企画もありました。



こうした時間を通じて、参加者それぞれが、地域医療にとって大切なものを発見し、感じたことを参加者みんなで共有できたように思います。

2日目の夜に開催されたフランクな意見交換会では、長門市長をはじめ、多数の行政・大学・医療関係者が参加され、学生生活の中では経験できない交流も生まれました。



最終日は、それまでの経験をもとに、地域の魅力をさらに伸ばし、課題を解決するために何ができるかディスカッションし、様々なアイデアを発表しました。学生ならではのユニークな意見が飛び出し、会場を沸かせていました。

終了後には、参加学生からは「また来年も参加したい」、受け入れ側からも「ぜひまた開催してください」という声を多数頂き、学生とっても地域にとっても充実したセミナーとなったようでした。

次回は、平成30年の夏、日本海側から瀬戸内海側にフィールドを移し、周南市での開催を予定しています。興味を持たれた医学生・看護学生の皆さん、周南市でお会いしましょう！



～県外出身医師から見た山口県の医療の姿～ 山口県の地域医療を考える



横田啓（よこたけい）先生プロフィール

昭和58年、千葉県生まれ。その後、神奈川県の高校を卒業し、自治医科大学で学ぶ。

平成14年3月 神奈川県立湘南高校卒業

平成20年3月 自治医科大学卒業

平成20年4月 神奈川県立足柄上病院 初期研修

平成22年4月 岩国市立美和病院

平成24年4月 岩国市立本郷診療所

平成25年4月 神奈川県平塚保健福祉事務所・神奈川県立煤ヶ谷診療所

平成26年4月 聖マリアンナ医科大学腎臓・高血圧内科

平成28年4月 山口県立総合医療センターへき地医療支援部

（写真 アメリカ・オレゴンにて）

「山口県の地域医療にはどんな可能性があるのか」

このコーナーでは、県外出身で、縁あって山口県で勤務することとなった山口県立総合医療センターへき地医療支援部の横田啓先生とともに、外から見た山口県の地域医療について考えていきます。

一先生は県外のご出身でいらっしゃいますが、どんなところで過ごされたんですか。

生まれは千葉県なんですけど、父親の仕事の関係で、5歳のときに兵庫県、中学2年の頃に茨城県、高校2年の頃に神奈川県に転居しました。

兵庫県では、最初宝塚市にいて、その後兵庫県の川西市に移ったんですが、川西市にいる頃、12歳のときに阪神淡路大震災に遭いました。1か

月くらいガスが止まって温かいご飯が食べられませんでした。また、宝塚市にいた頃に友達の住んでいた家のあった場所が更地になっていて、震災の恐ろしさを身を持って体感しました。

一先生が将来の職業を意識されたのはいつごろですか。

震災を経験した中2の頃だったと思うのです

が、オックスファムというNGOのラジオを聞くことがあって、そのときに「世界には食事がなくて亡くなる人が1日に5万人もいる」ということを知ったんです。そのことに衝撃を受け、それと同時に将来の職業を意識し始めました。



一ということは、最初から医師を目指された訳ではなかったということですか。

そうなんです。最初は国連に勤めたいと思っていました。その後、茨城県の高校に通っていた時にとってもお世話になった倫理の先生に将来の夢を語ったことがあって、そのときに先生から、「紛争地帯で殺されない職業が2つある。白衣を着た人と、お坊さん」と言われた。人の生死にかかわる仕事をしている人は大事にされる、それだけ、そうした土地に暮らす人にとって大切な職業だ、ということです。そこから数カ月悩みました。その頃、出会った本で、「医は国境を越えて」という中村哲先生が執筆された本に大変感銘を受け、医師を目指そう、という意味が明確になりました。そして高校2年の終わりから「理転」したんです。そこから、それまであまり勉強してこなかった理科の勉強を始めました。自治医大は倫理の先生の紹介で知りました。大学の建学の精神が自分の目指す方向に合っていたので、自治医大への進学を希望するようになりました。

大学生の頃は、暇を見つけては海外旅行に行っていました。海外といっても、医療を受けることが難しいような東南アジアの村に行って、現地の

生活を体験したり、そこで活動するNGOに合流して支援活動を手伝ったりしていました。

一どうやって旅行先を見つけていたのですか。

NGOの情報が載っている本を見て、直接NGOに連絡を取っていました。

一先生の行動力はすさまじいですね。

それでは、先生が医師になってからの勤務についてお訊ねしますが、神奈川県ではどんな勤務をされていたか。

神奈川県はへき地がないので、保健所での勤務が多くなります。私も保健所で勤務しましたが、感染病予防の業務や、中学校でエイズに関する講演をしたり、公民館で健康講座をして回ったり。それらの経験も有意義だったと思います。保健所勤務のときには、3日保健所、1日診療所、1日研修、というスケジュールでした。後期研修では、大学病院で腎臓内科について学びました。

一山口県で勤務することになったきっかけを教えてください。

同じ自治医卒で山口県出身の女性との結婚を機に、山口県で勤務することになりました。山口県のへき地では、美和病院と本郷診療所に勤務しました。山口県で義務が明けることになったのですが、縁あってそのまま県立総合医療センターへき地医療支援部で勤務しています。

一現在、へき地医療支援部ではこういった仕事をされておられるのですか。

無医地区等での巡回診療やへき地診療所の代診など、へき地の医療支援を行っています。また、総合診療専門研修プログラムの専攻医の育成を行っています。



ー山口県の印象はどうか。

山が多く、自然豊かで、きれい、という印象です。そして魚がおいしいのが魅力ですね。

へき地で勤務していたときに、地域の方にとてもよくしてもらいました。まだ若くて至らないところも多い時期に、1人診療所での勤務はプレッシャーもありますが、それを上回る「やりがい」を感じていました。

ー山口県での勤務を通じて、神奈川県との違いについて、どんなふう感じられましたか。

自分が山口県のへき地勤務での経験でいうと、へき地には総合病院はありませんが、へき地診療所では、何があっても診る、という姿勢で勤務していました。それによって、住民も、何でも相談できるし、安心感を与えることができていたと思います。一方、都市部ではいろんな選択肢がありますが、その結果、相談先が見つからない人が意外に多いのではないのでしょうか。

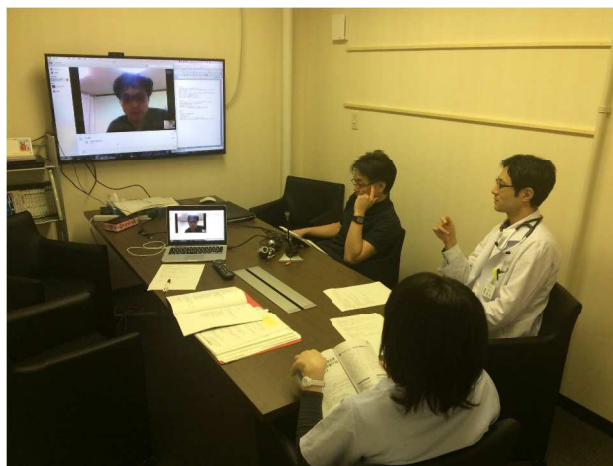
ー山口県の地域医療の強みと弱みについてどう感じですか。

医師の偏在、医師不足というのは確かに感じま

す。また、医師の高齢化も進んでいるようです。それが弱みでしょうか。一方で、何でも相談できる医師が多いな、という印象があります。総合診療専門医を目指す人は、今、地域医療を担っている医師を見習うべきところがたくさんあると思います。

ーこれからの山口県の地域医療に求められているものは何だとお感じですか。

これまでへき地を支えてこられた医師が高齢化する中、そうした医師の跡を継ぐ方はなかなか現れないのが現状です。我々は、地域医療に興味をもった学生を増やしていく必要があります。そのためには、興味を持ってもらえるような機会を提供していくことが求められます。ただ、そうして育った医師が、1人で地域を支えるのではなく、支え合うシステムをつくることも大事です。県総では、へき地で勤務する総合診療専門研修プログラム専攻医と、週1回、スカイプで相談できる体制をつくっており、こうした取組が広がっていくことを期待しています。



スカイプを活用した遠隔カンファレンス

ー医師不足に対してこういった対策が考えられますか。

働きやすい環境をつくることで、山口県で働きたい、と思う人が増えていくのではないのでしょうか。特に女性医師が多くなっている昨今、ワーク

ライフバランスを考えたフレキシブルな働き方ができる職場づくりは急務です。具体的な策として、例えば、山口県では1人の患者さんを1人の医師が診る「主治医制」が主流で、もちろんメリットは大きいのですが、医師の負担が大きいというデメリットもあります。これからは複数の医師で患者さんを診る「チーム制」の導入も検討する時期かもしれません。

ー今後の抱負を教えてください。

臓器別の専門医を目指していたこともありましたが、OHSU（オレゴン健康科学大学）で総合診療について学んでからは、今の日本にとって、複数の疾患を包括的に診ることができる「総合診療医」を育てていくことが大事だという風に認識が変わりました。今は、1人でも多くの若手医師に、総合診療に魅力を感じてもらえるように、県

総の総合診療専門研修プログラムを充実させ、山口県で活躍する総合診療医を育成していくことが目標です。

ーありがとうございました。これからも山口県の地域医療の充実に向けた先生の御活躍に期待しています！



横田先生が指導医を務める県立総合医療センターの総合診療専門研修プログラム「長州総合診療プログラム」。

平成24年に日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療専門医の養成プログラムを設置後、毎年、専攻医がエントリーし、計8名の受け入れ実績があり、自治医科大学の卒業医師キャリアにも対応可能。興味のある方は、是非、県立総合医療センターへお問い合わせください。

山口県立総合医療センター
長州総合診療プログラム

つむぐ、つながる、つよくなる。

General Medicine
Yamaguchi Grand Medical Center
総合診療専門医

未来は現在からつくられる、想いを「つむぐ、つながる、つよくなる」

「長州総合診療プログラム」について

山口県では、人口減少が進む中、医療の質を維持・向上させるために、地域医療の充実が求められています。本プログラムは、総合診療専門医の育成を目的として、平成24年に設置されました。毎年、専攻医がエントリーし、計8名の受け入れ実績があり、自治医科大学の卒業医師キャリアにも対応可能。興味のある方は、是非、県立総合医療センターへお問い合わせください。

「長州総合診療プログラム」のミッション

地域に根ざし、貢献できる医師を育成します。

「長州総合診療プログラム」の強み・特徴

- 地域性を重視する
- 地域に根ざし、貢献できる医師を育成します
- 地域性を重視する
- 地域に根ざし、貢献できる医師を育成します

指導医・OBからのメッセージ

山口県立総合医療センター 総合診療科 指導医 横田 隆之

山口県立総合医療センター 総合診療科 専攻医 田中 健一

注目！ 山口県で総合診療医になろう！！

★山口県では、へき地をはじめとした多くの地域で医師が不足しており、こうした地域では様々な住民のニーズに対応し、入院・外来診療から在宅医療や緩和ケアまで、保健・福祉との密接な連携などにも幅広く対応できる「総合診療医」が望まれています。

★山口県の5つの総合診療専門研修プログラムは、これからの超高齢化社会に対応できる「総合診療医」を育てます。

★地域の期待に応える意欲ある方のプログラム登録をお待ちしています！



国立病院機構 岩国医療センター

〒740-8510
住所：岩国市愛宕町 1-1-1
Tel：0827-34-1000
Mail：sonobe-h@iwakuni-nh.go.jp

【岩国医療センター 総合診療科専門研修プログラム】

- 連携施設：いしいケア・クリニック、岩国市立錦中央病院
- 研修期間：3年



独立行政法人地域医療機能推進機構 徳山中央病院

〒745-8522
住所：周南市孝田町 1 番 1 号
Tel：0834-28-4411
Mail：toshiro@tokuchuhp.jp

【徳山中央病院総合診療専門研修プログラム】

- 連携施設：いしいケア・クリニック、周防大島町立東和病院
- 研修期間：3年



山口県立総合医療センター

〒747-8511
住所：防府市大字大崎 77 番地
Tel：0835-22-4411（代表）
Mail：soumuka@ymghp.jp

【長州総合診療プログラム】

- 連携施設：岩国市立錦中央病院、岩国市立美和病院、周防大島町大島病院、周防大島町東和病院、周防大島町橋病院、美祢市立病院、美祢市立美東病院、下関市立豊田中央病院
- 研修期間：3年



山口大学医学部附属病院

〒755-8505
住所：宇部市南小串 1-1-1
Tel：0836-22-2686
Mail：general@yamaguchi-u.ac.jp

【山口大学総合診療プログラム】

- 連携施設：宇部興産中央病院、波乗りクリニック、宇部協立病院、生協小野田診療所、美祢市立病院、下関市立豊田中央病院、わたぬきクリニック、川上診療所、河野医院、都志見病院
- 研修期間：4年



独立行政法人地域医療機能推進機構 下関医療センター

〒750-0061
住所：下関市上新地町 3 丁目 3 番 8 号
Tel：083-231-5811
Mail：soumu@shimonoseki.jcho.go.jp

【下関医療センター総合診療後期研修プログラム「ふくふくプログラム」】

- 連携施設：下関市立豊田中央病院、特定医療法人茜会昭和病院、JCHO 徳山中央病院
- 研修期間：3年



★：県内基幹施設

☆プログラムに関する詳細情報は、「やまぐちドクターネット」に掲載しています。

◆ 医師確保総合情報サイト「やまぐちドクターネット」

県のインターネットサイト『やまぐちドクターネット』では、県の医師確保対策をはじめ、地域医療に関するトピックスや県内医療機関の情報を掲載しています。

このサイト上で会員登録をいただいた方には、現場で活躍する女性医師や研修医の方々のエッセイ等を紹介するメールマガジン「やまぐちドクターネット通信」を隔月配信しています。

本誌のバックナンバーも掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。

⇒ <http://www.y-doctor.med.yamaguchi-u.ac.jp/>



◆ 地域医療に従事する医師を志す方への支援制度を設けています！

山口県では、地域医療を担う医師の育成のため、自治医科大学の運営費負担と医師修学資金の貸付けを行っています。各制度の詳細や応募方法については、山口県医療政策課へお尋ねください。

自治医科大学について

自治医科大学は、へき地等の医療の確保と向上を図るため、昭和47年に全国の都道府県が共同して設立した、地域医療を支える医師を養成する医科大学です。

山口県からは、毎年2～3人が入学し、現在、山口県出身の卒業医師は80人にのぼっており、へき地医療のほか、病院や大学、行政など、様々な分野の第一線で活躍しています。

< 修学資金貸与と返還免除 >

○ 修学資金貸与

入学金・授業料・実験実習費・施設設備費の全額と入学時学業準備費40万円が入学者全員に修学資金として貸与されます。

○ 返還免除

卒業後、山口県知事指定のへき地診療所等に医師として勤務した期間が、修学資金の貸与を受けた期間の1.5倍相当期間に達した場合は、修学資金全額（利息含む）の返還が免除されます。

< 入試情報 >

第1次試験（学力試験・面接試験）

期日：例年1月下旬（学力試験の翌日に面接試験）

場所：山口県庁

学力試験の科目：数学・理科・外国語

第2次試験（小論文・面接試験）

期日：例年2月上旬

場所：自治医科大学（栃木県下野市）

山口県医師修学資金貸付制度について

《入学予定者・在学生対象の募集》 ★募集期間：平成30年3月下旬～5月下旬

区 分		特定診療科枠・外科枠	県外医学生支援枠
募集人数		7 人 程 度	3 人 程 度
貸 付 額		月額15万円	月額12万円
対象者 ア～ウを 全て 満たす者	ア	(次のいずれかに該当) ①山口県内の高校を卒業し、県内外の医学部に在籍する学生 ②山口県外の高校を卒業し、山口県内に3年以上継続して在住する保護者を有し、県内外の医学部に在籍する学生	(次のいずれかに該当) ①山口県内の高校を卒業し、県外の医学部に在籍する学生 ②山口県外の高校を卒業し、山口県内に3年以上継続して在住する保護者を有し、県外の医学部に在籍する学生
	イ	1年生～6年生	
	ウ	大学卒業後、山口県内の公的医療機関等において、 <u>小児科、産婦人科、麻酔科、救急科、放射線治療科、病理診断科、呼吸器内科、外科</u> の医師として勤務しようとする学生	大学卒業後、山口県内の公的医療機関等において、医師として勤務しようとする学生
貸付けの条件		○ 大学を卒業した日から2年以内に医師免許を取得し、その後、直ちに臨床研修を開始しなければなりません。 ○ 臨床研修修了後、貸付期間の2倍に相当する期間に達するまでの間に、貸付期間の1.5倍に相当する期間、知事が指定する県内公的医療機関等において医師として（特定診療科枠・外科枠においては、当該診療科の医師として）業務に従事しなければなりません。 （県内の基幹型臨床研修病院が管理を行う臨床研修プログラムで実施された臨床研修期間については、貸付期間が5年以上の場合は2年、3年以上5年未満の場合は1年が業務に従事した期間として算入されます。）	
返還免除要件		上記の「貸付けの条件」を全て満たした場合に、貸付金の全額（利息含む）の返還が免除されます。	

《大学入試枠との連動》 ★募集期間については各大学の募集要項を参照ください

区 分	地域医療再生枠	緊急医師確保対策枠
募集人数	10人（山口大学9人、鳥取大学1人）	5 人（山口大学）
貸 付 額	月額15万円	月額20万円
対 象 者	山口大学医学部医学科推薦入試「地域医療再生枠（山口県枠）」及び鳥取大学医学部医学科一般入試「地域枠（山口県枠）」に合格した者全員	山口大学医学部医学科推薦入試「緊急医師確保対策枠」に合格した者全員
貸付けの条件	○ 大学を卒業した日から2年以内に医師免許を取得し、その後、直ちに臨床研修を開始しなければなりません。 ○ 臨床研修修了後、12年に達するまでの間に9年（緊急医師確保対策枠の場合、9年のうち4年は過疎地域の病院において）、知事が指定する県内公的医療機関等において医師として業務に従事しなければなりません。 （県内の基幹型臨床研修病院が管理を行う臨床研修プログラムで実施された臨床研修期間については、2年が業務に従事した期間として算入されます。）	
返還免除要件	上記の「貸付けの条件」を全て満たした場合に、貸付金の全額（利息含む）の返還が免除されます。	

◆ 「地域医療の風だより」 継続発送の御案内

お送りいただいた情報は本誌の送付に関する用途以外には使用しません。

ファックスでのお申込み

申込書に御記入の上、ファックス番号 083-933-2829 にお送りください。

◆ 継続発送申込書

氏 名	(歳)
送付先住所	(〒 —)

Eメールでのお申込み

件名を「地域医療の風だより継続発送希望（医師確保対策班）」とし、申込者の氏名・年齢・送付先住所・郵便番号を記入して、メールアドレス a11700@pref.yamaguchi.lg.jp にお送りください。

岩国市周東町祖生の風景（河郷診療所の付近）

山口県健康福祉部医療政策課医師確保対策班
 山口県へき地医療支援機構
 〒753-8501 山口県山口市滝町1番1号
 電 話 083-933-2937
 Eメール a11700@pref.yamaguchi.lg.jp
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a11700/index/>

